

3 院外 A. Nさん

学生時代にコロナウイルス感染症の流行で、実習がほぼできていなかったことで、不安が大きい中入職しました。技術やアセスメントで自信のないことばかりでしたが、先輩看護師に相談するとわかりやすく、かつ丁寧に熱心に教えてくださるためとても勉強になります。そのおかげで、まだ業務についてわからないこともありますが、できることも一つずつ増え、自信も少しずつですが持てるようになりました。プリセプター制度もあるため、不明点や不安点は先輩に相談しやすく、安心して業務を行うことができます。

毎日、自分の未熟さを感じる日々ですが、患者さんから「ありがとう」や笑顔がすごく励みになります。看護師の技術ひとつで患者さんの命にかかわることもあるため責任が重い仕事ですが、それ以上にやりがいがある仕事だと思っています。今後は、もっとたくさんの看護技術を身に付け、自信をもってケアが提供できるようになりたいです。また、患者さんの全体像を捉えながら支援できるよう、学習に励んでいこうと思います！

4階病棟 M.Mさん

働いて3か月、日々の業務には慣れてきました。患者を受け持つ人数が増えるにつれ、患者の重症度やその日の体調をみながら、バイタルサインの時間や順番を調整するよう心がけています。しかし、予定と違うことが起きると慌ててしまうことがあり、落ち着いて現状を把握し対応できるようになりたいと思っています。看護技術の習得は、同期と比べると進みは遅いですが、先輩の協力もあり自立してできることも増えています。まだ合格をもらっていない看護技術について、手順や観察点を復習し、積極的に自分から率先して先輩に教えていただけるようにしていきたいです。

同期の仲間とは、技術練習を一緒に行うことや、情報交換、お互いの悩み等を相談しあう等仲良くやれています。また、先輩たちは私のことを常に気にかけてくれています。私自身、わからないことをうまく表出できず伝えきれないこともあるので、思ったこと、感じたことを伝えられるように自分から相談しながら、ハウ.レン.ソウを頑張っていきたいです。

4 階 病 棟 M.U さん

入職してから一番大変であったのが、初めて行う看護技術ばかりであったということです。大学では看護技術の学習はしていましたが、働き始めてから初めての技術を体験することが多く不安でした。例えば胃管挿入、膀胱留置カテーテル挿入、採血や点滴留置等です。しかし、私の技術の獲得に対して、先輩が患者さんのカテーテルの交換日に対し、経験できるように予定を調整してくれたり、採血などでは、先輩に声をかけて練習に付き合ってもらったりなど、各技術の回数を確実にこなせるよう、先輩の協力を得ながら工夫しました。各技術の手順、根拠、留意点、患者さんへの声掛け等わからないことや不安なことがあり、何度も質問する機会がありましたが、先輩は、私のペースに合わせてやさしく丁寧に教えてくださり、助けてもらっています。まだまだ、自分一人で実施できない技術もありますが、日々がんばっていきたいです！

5階病棟 N.Aさん

入職から3か月たち、初めに比べると環境にも仕事にも慣れてきたなと感じます。

まだまだ出来ないことばかりで不安や焦りを感じることも少なくはないですが、

反対にできることもすこしずつ増えてきました。患者さんたちの笑顔を見ると、

この仕事を選んでよかったなと思います。先輩や同期から沢山のことを学び、自

分の目指す看護師像に少しでも近づけるよう、一つひとつの仕事を丁寧に行うこ

と引き続き実践していきたいです！

5階病棟 M.Kさん

4月に入職してから3カ月が経った。学生時代は、コロナウイルス感染症により、実習の期間が短く、看護技術がほとんど経験できないまま入職を迎えることになったため、不安な気持ちだった。しかし、4月は実習であまり経験できなかった基礎の看護技術演習を体験することができ、同期とともに、技術習得に専念することができた。5月では、少しずつ看護業務に慣れ、指示を受けなくても1日の流れが分かるようになった。看護技術も4月に比べて自立できるようになったものが増え、入職前の不安な気持ちが少しずつ減っていった。また、4月は受け持ち患者人数が2名という人数単位でしか受け持つことができていなかったが、6月では3部屋の受け持ちができるようになり、入院患者を全て受け持つことができた。まだまだ、知識・技術が乏しく経験不足も多いが、4月に比べるとできることが増え、自分の成長を少しずつ感じる事ができている。今後は、業務効率や優先順位を考えながら行動できるようになり、患者に不快感を与えないよう迅速かつ丁寧な対応を心がけていく、